

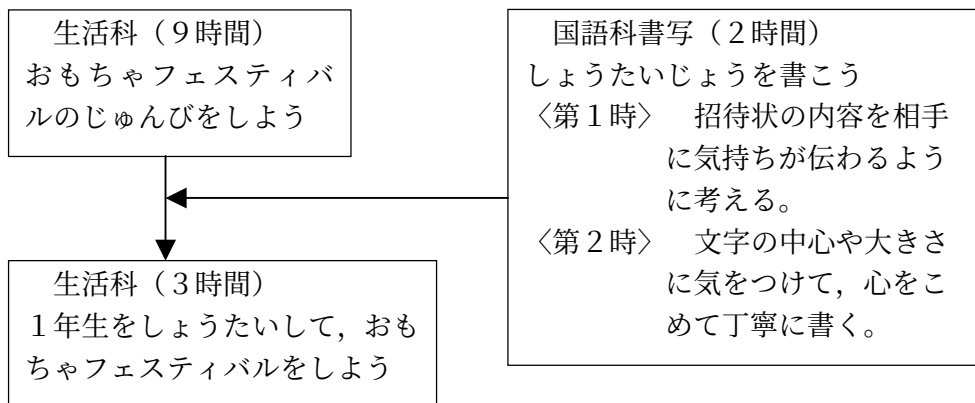
第2学年C組 国語科書写学習指導案

平成14年11月1日(金) 10:00～11:00 2年C組教室 指導者 奥島珠美

1 単元 しょうたいじょうを書こう

- 2 目標
- 文字の中心や大きさに気をつけて、心をこめて丁寧に書くことができる。
 - 招待状を書く活動を通して、自分の思いを相手に伝える楽しさを知り、学習したことを生活に生かすことができる。

3 指導計画 (単元構想)



4 指導上の立場

- 低学年における書写の指導では、「姿勢や用具の持ち方を正しくして書くこと」「点画の長短、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと」をねらいとしている。

本単元は、文字の中心や大きさに気をつけて、心をこめて丁寧に書くことが大きな目標である。「手紙」という手段で伝え合う活動を通して、生活の中に生きて働く力としての書く力、伝え合う力としての書く力を高めることをねらっている。そこで、書写の時間に学習したことを広げて、日常生活に生かしてほしいと考え、11月中旬に予定している1年生を招待する「おもちゃフェスティバル」の招待状を書くことを設定した。いつも仲良くしている1年生に心をこめて招待状を書くという相手意識をもった活動を通して、さらに主体的な学習に取り組むことができると思われる。

また、この単元は、第3学年の「生活に生かそう」という題材へと発展する。

○ 本学級の児童は、書くことが好きで、書写の時間をとても大切にしている。字が上手に書けたり、教師や友達に認められたりすることに喜びを感じている児童も多い。しかし、日常生活においては、速く書こうとするために思うように書けず、乱雑になってしまう児童がいるなど、書写の時間に学習したことが日常生活に生かされていないこともある。そこで、本題材ではゆっくりと丁寧に文字の中心や大きさに気をつけて書くように意識付けをし、日常生活に生かしていきたいと考えている。

○ 本校の研究テーマ「生きる力を育む書写指導のあり方―すすんで取り組み、書く喜びのもてる学習をめざして―」に迫るために、低学年では、めざす児童像を「書くことに興味をもち、喜んで書こうとする子ども」と設定した。本時では、今まで学習してきたことを生かしながら、1年生への「おもちゃフェスティバル」の招待状を書くことで、文字を正しく丁寧に書こうとする意識をもつように指導していきたい。そして、1年生に喜んでもらい、自分の思いを相手に伝える楽しさを味わわせたい。作品ができあがった段階で、一人ひとりのめあてに着目して、自分の伸びや友達の伸びを認め合う場をもつことによりさらに書く喜びを味わわせたい。また、最後に招待状を完成させることにより出来上がった成就感を味わうとともに、今後の生活の場に生かそうという意欲も高めていきたい。

5 本時案（第2時）

目標	・ 文字の中心や大きさに気をつけて書くことができる。 ・ 正しい姿勢、用具の持ち方を意識しながら、丁寧に書くことができる。 ・ 自分や友達のよさに気付き、喜んで書くことができる。		
	学習活動	教師の支援	準備
つかむ	1 めあてをもつ。	○ 仲良し班の1年生に贈るおもちゃフェスティバルの招待状を完成することを知らせ、学習の意欲付けを図る。	おもちゃ 作成中の 写真 おもちゃ の実物 招待状の 台紙 前時に書 いた下書 き
		文字の中心や大きさに気をつけて、心をこめて、しょうたいじょうを書こう。 ○ 案内文を考えたときに書いた招待状を見て、自分のめあてをもつことができるようにする。 ○ 自分のめあてを見つけにくい児童には、比べ方を助言するなど、個別指導する。	

すすめる	2 練習する。	○ 書写体操をすることにより、正しい姿勢と用具の持ち方を意識付けてから、練習を行うようにする。 ○ 児童の課題に合った練習用紙を用意することで、一人ひとりのめあてに沿った支援ができるようにする。 ○ 中心線を確認めるひごや透明シートを用意し、随時利用できるようにする。 ○ 上手になったところや、よい姿勢の児童を称揚することで、意欲の持続を図る。	練習用紙 ひご 透明シート 中心線を書いた下敷き
確かめる	3 まとめをする。 ・ 評価する。	○ めあてに沿って、まとめ書きができるように、めあてにあった清書用紙を用意する。 ○ 最初に書いた文字と比べて、上手になったところを見つけて発表することで自分の伸びに気付くことができるようにする。 ○ 友達と作品を交換し合って、互いのよいところを見つけ合うことで、認め合う喜びを感じ取ることができるようにする。 ○ 教材提示装置を使って、伸びの見られる児童を称賛する。 ○ 招待状に手紙を貼り、招待状を完成させ、学習の成果を感じることができるようになる。 ○ 友達の作品について、よいところや工夫しているところを見つけ、伸びを認め合うことができるようにする。	清書用紙 ほめほめシール 教材提示装置のり
評価	・ 文字の中心や大きさに気をつけて、心をこめて丁寧に招待状を書くことができたか。 ・ 姿勢や用具の持ち方は正しくできたか。 ・ 自分や友達のよさに気付くことができたか。		